

2.9.1 附属施設：附属農場

1. 附属施設の概要

附属農場は、農学部創設（1923年11月）に伴って1924年5月に京都大学北部構内に開設された。現在は大阪府高槻市八丁畷町の本場（水田班、果樹班、蔬菜班、事務室を設置）、高槻市古曽部町の古曽部温室（花卉温室班）および京都大学北部構内の京都農場（京都農場班）から構成されている。本場の面積は15haで、水田3.2ha、畑地2.2ha、果樹園4.0haであり、古曽部温室は0.8ha、京都農場は3.5haである。1998年4月に農学部附属農場から大学院農学研究科附属農場に移行した。その際、農場内に生産管理科学講座の植物生産管理学研究室を創設し、これまでの学部学生の実習教育に加えて、学部及び大学院の専攻生の教育を担当する体制となった（農学専攻生産管理科学講座参照）。

附属農場では、2回生を対象に農作物栽培の基礎を学ぶ実習として通年科目「栽培技術論と実習Ⅰ」を開講し、毎週月曜日と水曜日の午後に実施している。2010年度からは、3回生を対象に農作物の生理・生態と栽培技術の関連を学ぶ「栽培技術論と実習Ⅱ」を開講し、夏期の集中実習として実施している。また、全学の新入生を対象とした少人数セミナー（ポケットゼミ）では「農業体験実習セミナー」が開講されている。さらに、2010年度からは大学コンソーシアム京都に単位互換科目「食卓の栽培学と実習」を提供し、夏期集中実習により他大学学生に対する農場教育を実施するとともに、他大学の教育の場としても農場を提供しており、多様な大学教育に活用されている。

一方、附属農場は農場教員の研究のみならず、農学専攻をはじめとする農学研究科の研究の場として活用されており、他大学や企業との応用的・実証的研究も数多く実施されている。このような研究による農場利用は96件である。さらに、植物遺伝資源の保存の場として利用されており、保存プロジェクトは24件となっている。

上記の教育・研究活動のほかに、地域社会への貢献を狙いとする活動もなされている。その一環として2010年度は、附属農場第14回公開講座を開催するとともに、高槻市の大学交流事業における講演や高槻市食育フェアへの出展等を行った。また、附属農場において、JA たかつき果樹剪定講習会、日本セカンドライフ協会農場実習等を実施するとともに、国際貢献として、JICAアフリカ地域陸稲品種選定技術コースの研修等を実施した。

1. 教員

主 事	米森 敬三
教 授	北島 宣
准 教 授	中崎 鉄也
講 師	
助 教	片岡 圭子
助 教	札埜 高志
助 教	羽生 剛
助 教	桂 圭佑
助 教	齊藤 大樹
客 員 教 授	
客 員 准 教 授	

2. 技術系職員

技術専門職員	小西 剛
技術専門職員	榊原 俊雄
技術専門職員	加賀田 恒
技術専門職員	野中 勝利
技術専門職員	岡本 憲茂
技術専門職員	西川 浩次
技術専門職員	楠見 浩二
技術専門職員	和田 亮一
技術専門職員	南 洋久
技術職員	若原 浩義
技術職員	奈良 伸
技術職員	岸田 史生
技術職員	松田 大
技術職員	内藤 実加
技術職員	黒澤 俊

2. 事務系職員

専門職員	小嶋 和宏
主 任	大杉 啓
非常勤職員	藤井 純江
時間雇用職員	梅本 智代美

3. 学生

大学院博士後期課程	0 名
大学院修士課程	5 名
専攻4回生	2 名
その他	0 名